

国宝

鶉図

布袋蔣摩訶問答図

那智瀧図

根本百一羯磨

観普賢経

重要文化財

夕陽山水図

竹雀図

牧牛図

瓜虫図

一山一寧 進道語

明極楚俊 偈

龍巖徳真 偈

大威徳明王像

釈迦八相図

天狗草紙絵巻

江天遠意図

青磁筒花入

肩衝茶入 松屋

雨漏茶碗

青井戸茶碗 柴田

梅松文真形霰釜

秋野蒔絵手箱

花白河蒔絵硯箱

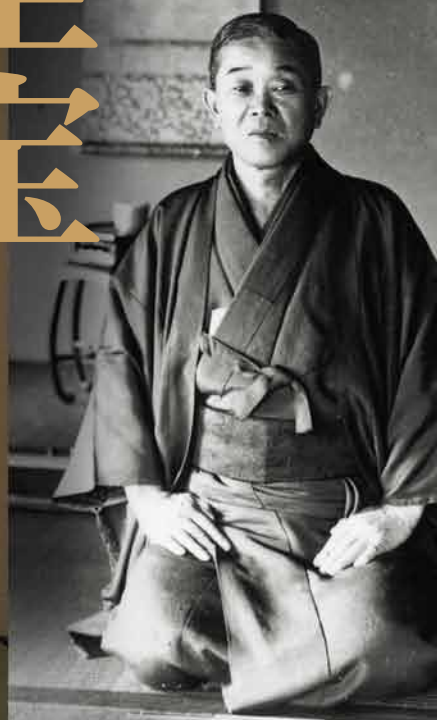
等約四〇件

初代根津嘉一郎コレクションの軌跡

財団創立75周年記念特別展

根津青山の至宝

ねぶせいざん



根津美術館は、二人の「嘉一郎」によってつくられました。明治から昭和にかけて多くの優れた古美術品を集めた初代嘉一郎と、その遺志に従い美術館を創設し戦火を超えてコレクションを守り伝えた二代嘉一郎です。

実業家であった初代根津嘉一郎は、明治39年(1906)に行われた入札会で「花白河蒔絵硯箱」を破格の値段で落札し、蒐集家としても著名になりました。明治42年(1909)米国視察実業団に参加した際、公共の利益のために惜しみなく寄付を行う米国の文化に感銘を受け、またいしえより大切にされてきた古美術品がかえりみられることなく欧米に売られている状況を知ってこれを憂い、以後一層蒐集に励みコレクション公開の意思を強めていきました。60歳を超えてから本格的に取り組んだ茶の湯の同好の士との交わりも、蒐集に大きな影響を与えました。

昭和15年(1940)に急逝した初代の遺志を継ぎ、二代嘉一郎は同年財団法人根津美術館を設立、翌昭和16年(1941)11月に根津邸で、絵画、墨跡、古筆、彫刻、茶道具など約60件で初の美術展を行いました。その後戦争の激化により閉館、根津邸は空襲で失われましたが、美術品は疎開させ守り抜きます。展覧会の再開は、早くも終戦の翌年昭和21年(1946)10月のことでした。

財団創立75周年を記念する特別展として、国宝7件、重要文化財87件を擁する約7400件の当館コレクションから初代嘉一郎の蒐集の軌跡をたどり、特に書画と茶道具の名品をご覧いただきます。

根津美術館
NEZUMUSEUM





重要文化財 花白河蒔絵硯箱
1合 木胎漆塗 日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵

初代嘉一郎は、第2回の大坂平瀬家の売立で、この硯箱を手に入れるため大阪まで出向いた。札を入れたのち夜汽車で東京へ戻り、翌朝新聞で落札を知ったという。



重要文化財 加賀光悦茶碗 本阿弥光悦作
1口 日本・江戸時代 17世紀
相国寺蔵
(展示期間 9/25-11/3)

筒形の赤楽茶碗で、口廻りから胴部に笠目を加えた、作爲の強い茶碗である。そのためか、光悦作とされる茶碗では珍しく「加賀光悦」写しの茶碗が幾つか見られる。初代嘉一郎はこの茶碗に感銘をうけ、加賀光悦写しの茶碗をもとめた。

その他の主な出品作品

重要文化財
牧牛図
毛倫筆
中国・元時代
13-14世紀

重要文化財
大威徳明王像
日本・鎌倉時代
13世紀

重要文化財
夕陽山水図
馬麟筆 理宗賛
中国・南宋時代
13世紀

重要文化財
瓜虫図
呂敬甫筆
中国・明時代
14-15世紀



色絵白雁香合
1合 オランダ 17-18世紀
石川県立美術館蔵

金沢を訪れた時に初代嘉一郎は、この香合を一目みていと熱望した。柔らかな白釉に赤、緑、黒で彩色されている。江戸時代前期の日本からの注文品であった。

展示室1,2

「コレクションの形成と茶の湯」

唐物道具から侘茶の道具へ

初代根津嘉一郎(1860-1940)は、明治30年代に甲州(山梨県)から東京に活動の場を移し、実業の傍ら古美術品の収集にも励みました。収集の軌跡に、収集家から茶の湯の達人へと変わっていく様子をご覧ください。

重要文化財
江天遠意図
伝周文筆・大岳周崇
ほか11僧賛
日本・室町時代
15世紀

重要文化財
龍巖徳真墨蹟 偈
中国・元時代
至順2年(1331)

重要文化財
一山一寧墨蹟 進道語
日本・鎌倉時代
正和4年(1315)

重要文化財
無学祖元墨蹟 偈断簡
日本・鎌倉時代
弘安3年(1280)

重要文化財
梅松文真形叢釜
大江宣秀作
日本・室町時代
永世14年(1517)

重要文化財
秋野蒔絵手箱
日本・室町時代
15世紀



国宝 布袋蔣摩訶問答図 因陀羅筆・楚石梵琦賛
1幅 紙本墨画 中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

禅味に富んだ因陀羅の絵は茶人の間ですごく人気が高かった。布袋和尚と、釈迦の前世の姿である蔣摩訶を描く。田安徳川家伝来のこの1幅は、大正13年(1924)購入。



国宝 鶉図 伝 李安忠筆
1幅 絹本着色 中国・南宋時代 12-13世紀
根津美術館蔵

精緻な筆遣いで、一羽の鶉を写実的に描いた南宋花鳥画の名品。東山御物として名高い本作品を、初代嘉一郎は大正元年(1912)に入手した。

重要文化財
文琳茶入 銘 白玉
中国・南宋～元時代
13-14世紀

赤茶碗 膳所光悦
本阿弥光悦作
日本・江戸時代
17世紀
MOA美術館蔵

重要文化財
宗峰妙超墨蹟
上堂語／夙墨蹟
日本・鎌倉時代
14世紀
九州国立博物館蔵

重要文化財
天狗草紙絵巻
日本・鎌倉時代
13世紀

重要文化財
釈迦八相図
日本・鎌倉時代
13世紀

大正6年(1917)市場に出たこの仏教絵画を嘉一郎は落札した。一筋の滝のすがたに、自然への畏敬の念が込められた名品である。



那智瀧図
絹本着色 日本・鎌倉時代 13-14世紀
根津美術館蔵

濃淡の墨を駆使し、蓮の実にとまった燕を描く。20点以上にのぼった嘉一郎の牧谿コレクションの一点。後に新町三井家の所蔵となった。



蓮燕図 伝 牧谿筆
紙本墨画 中国・元時代 13世紀
三井記念美術館蔵

端正な姿に淡い枇杷色の釉がかかり片身で青味を呈している。根津は昭和9年(1934)にこの茶碗を手に入れた。茶の湯に打ち込んだ時期であった。



青井戸茶碗 銘 柴田
1口 高麗茶碗 朝鮮・朝鮮時代 16世紀
根津美術館蔵

その他の主な出品作品

重要文化財
観音菩薩受記経
(聖武天皇勅願一切経経)
日本・奈良時代
8世紀

展示室 5

「古経同好会」

美術館構想につながる自邸での展観

珠玉の古写経コレクションを入手した初代嘉一郎は、大正9年(1920)1月30日、益田鈍翁・高橋箒庵ら同好の士を自邸に招いて、それらを展観、披露する古経同好会を開きました。

重要文化財
註楞迦経卷第七
日本・奈良時代
8世紀

重要文化財
大般若経卷第二十三
(長屋王願経)
日本・奈良時代
8世紀

堂々たる書で、表紙や軸は原装をとどめる。全10巻中8巻が正倉院、巻第五が白鶴美術館、巻第六が当館の所蔵。修理後初の展示となる。



根本百一羯磨
紙本墨書 日本・奈良時代 8世紀 根津美術館蔵

交互に継いだ濃淡の色紙に、微細な金箔を撒いた高雅な装飾料紙と、優美な和様の書が特徴。平安後期を代表する色紙経の優品である。



観普賢経
彩箋墨書 日本・平安時代 11世紀 根津美術館蔵



『源氏物語』の冊子を取めるための
 筥筒。茶席でこのような大型
 の作品を飾ることは少ないが、
 初代嘉一郎はあえて書院の地袋
 の上に置いて披露した。

重要美術品 いしやまでらまきえげんじだんす
 石山寺蒔絵源氏筥筒
 1基 木胎漆塗 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵



赤く焼けた肌にも、丸い胴部が
 愛らしい茶碗である。初代嘉一
 郎は楽焼を好み、薄茶の茶碗
 としてしばしば用いた。

赤楽茶碗 銘 ハッサイ 伝 楽道入作
 1口 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵



重要文化財 十一面観音立像龕(部分)
 1面 中国・唐時代 7世紀
 根津美術館蔵



だいほんにやきょう かすがずし
 大般若経 および 春日厨子
 日本・鎌倉時代 13世紀
 根津美術館蔵



重要文化財 饗饗文方盃(左器)
 3箇のうち 中国・殷時代 前13-12世紀
 根津美術館蔵



展示室 6

「永久訣別の茶会」

初代嘉一郎渾身の取り合わせ

昭和15年(1940)1月4日、初代嘉一郎は80歳
 で世を去ります。亡くなる直前に催していた茶
 会を、金沢の美術商 越沢宗見はのちに哀悼
 の意を込めて、「永久訣別の歳暮茶事」と名付
 けました。

その他の主な出品作品

重要文化財
 竹雀図
 伝牧谿筆
 中国・元時代
 13世紀

青磁算木文香炉
 龍泉窯
 中国・南宋～元時代
 12-13世紀

色絵椿輪花向付
 尾形乾山作
 日本・江戸時代
 18世紀

展示室 3・ホール

「仏教美術の蒐集」

神仏を崇敬する精神のかたち

近代化する社会の中で、日本人が神仏への
 畏敬の念を失ってゆくのではないか — この想い
 が、初代嘉一郎を仏教美術品の蒐集に駆りた
 てました。

その他の主な出品作品

弥勒菩薩立像
 クシャーン時代

展示室 4

「中国古代の青銅器」

ヨーロッパを魅了した盃を中心に

初代嘉一郎は、1935年英国ロンドンのロイヤル
 アカデミーで開催された中国美術展へ、この盃
 の出品要請を受け、応じました。

その他の主な出品作品

重要文化財
 饗饗文罍
 中国・殷時代
 紀元前13-12世紀

重要文化財
 双羊尊
 中国・紀元前
 13-11世紀

上記記載のあるもの以外は
 すべて根津美術館蔵

関連プログラム

- 講演会1 「根津嘉一郎 ―コレクターから茶人へ―
日時 9月26日(土) 午後2時～3時30分
講師 西田 宏子 (根津美術館 顧問)
- 講演会2 「根津青山の茶友たち」
日時 10月24日(土) 午後2時～3時30分
講師 齋藤 康彦氏 (山梨大学 名誉教授)
*いずれも会場は根津美術館講堂(定員130名)
- (申込方法) 往復葉書の往信裏に、展覧会名・住所・氏名(返信面にも・裏は白紙のまま)・電話番号をご記入うえ、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館 講演会係宛にお申込みください。
*「講演会1」は9月12日(土)、「講演会2」は10月10日(土)締切(当日消印有効)。
*参加希望者1名1講演会につき、1枚の往復はがきでお申込みください。
- スライドレクチャー 日時 10月 2日(金) 午後1時30分から約45分間 「展示室5 古経同好会」
10月16日(金) // 「展示室6 永久訣別の茶会」
*いずれも会場は根津美術館講堂(先着130名)。学芸員がスライドを用いて説明いたします。
- ギャラリートーク 9月25日(金)、10月23日(金)、10月30日(金) 午前11時00分から約40分間
*いずれも会場は展示室1.2(先着35名)
*事前申込みは不要。午前10時より美術館受付にてお1人につき1枚の整理券を配布します。開始10分前に、整理券をお持ちのうえ、ホール階段下へお集まりください。
※いずれも聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

特別催事

- 茶席 日時 10月15日(木)「初代根津嘉一郎の茶席 ―大津馬図披露茶会にちなんで―」(詳細未定)
*この他にも茶会を開催する予定です。特別催事詳細は、決定次第、HP・館内掲示でお知らせします。

開催概要

- 【展覧会名】 財団創立75周年記念特別展「根津青山の至宝 ―初代根津嘉一郎コレクションの軌跡―」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2015年9月19日(土)～11月3日(火・祝)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日、ただし9/21、10/12(ともに月・祝)、11/2(月)は開館、10/13(火)は休館。
- 【入館料】 一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般1100円 学生900円
2015年7月30日(木)～9月6日(日)「絵の音を聴く ―雨と風、鳥のさえずり、人の声―」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問合せ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
- 【専用アプリ】 *携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展



源氏物語図屏風 住吉具慶筆 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

物語をえがく ―王朝文学からお伽草子まで―

2015年 11月14日(土)～12月23日(水・祝)

源氏物語、平家物語、曾我物語、西行物語、酒吞童子物語…多彩な物語を絵で楽しめます。

【リリース・広報のお問合せ】 担当: 所、村岡、羽田 TEL.03-3400-2538 (直) FAX.03-3400-2436 MAIL.press@nezu-muse.or.jp